

技術者の思考力を強化する 品質工学

「第19回品質工学研究発表大会」報告



品質工学会 会長 伊藤 源嗣

今年6月22、23の両日に開催された第19回品質工学研究発表大会は、リーマン・ショック後の不況に東日本大震災という追い打ちを掛けられた環境下の開催で、参加人数は昨年をやや下回ったが、下降傾向には一応

「品質工学」今後の展望

下け止まりの兆候が感じられ、品質工学は実験計画法が中心で、脱皮して、オフライン品質工学、オンライン品質工学、さらにはM-TSシステム、ソフトウェア評価へと発展してきた。また初

品質工学会 理事 矢野 宏

新しい成果次々と 品質工学、着実に前進

今回、大ホールでは①「品質工学」が最優先となったのが課題である。診断技術の開発(故障原因の検出と位置付け)が、きた事例であり、現在の状況から見て、②設計と加工技術の追求(モノづくりの最先端を上げるのには、③教育効果の向上(教育評価の現状を問う)④計測技術の開発(技術の根本にさかのぼる)という四つのテーマが採り上げられた。い



品質工学研究発表大会 実行委員長 谷本 勲

第19回品質工学研究発表大会結果報告

今年6月22、23日、館で品質工学研究発表大会を開催し、盛況裏にん(品川区立総合市民会 終えることができました)

震災の復旧、復興にも貢献

た。これも関連各位のご協力の賜物であります。研究論文をまとめた発表資料を御礼申し上げます。改めまして御礼申し上げます。この機会に、復旧、復興で被災された方々へ、心から敬意を表します。東日本大震災は防災先進国としての科学技術や防災の常識に衝撃を与えました。地震、液状化、津波などの複合災害であり、さらには原発事故による

発表テーマ、前回は上回る106件

6月22、23日に第19回品質工学研究発表大会(主催:品質工学会)が行われ、盛況のうちに終了した。技術者の思考力を強化する品質工学をテーマに、発表テーマ数は106件、参加者は約790人と、この時期の大会としては成功であった。大ホールで半日ずつ行われた主要テーマ4つの増上発表セッションと、ポスター発表セッションなどで構成された。来年には20周年を迎える品質工学も、創始者の田口玄一博士が病中にあることを考えると、やや拡散傾向はあるとしても、今回も新しい成果が次々と出てきており、着実に品質工学が前進していると言える。

で含めれば、まさに現在、当面している社会問題そのものである。②のセッションにおける研究発表は、まさに品質工学の得意とする製品設計と生産技術の最適化(トヨタ自動車、日産自動車、マツダ、松浦機械製作所)に関するもので、このセッションから発表賞銀賞が2件出たことは当然とも言える。③の教育問題セッション

は、品質工学が計測技術にあり、本年度の大会でも日本の技術者は健在であることが示された。今回の研究発表大会の発表賞銀賞1件、銀賞3件が選ばれた。

第4回品質工学技術戦略研究発表大会

11月18日に東京で開催 開発における品質工学の発展の中で、技術戦略を問うテーマに6件の発表が発表される。発表は①「品質工学研究の変遷と発展」(Hamada Quality Solutionの浜田和孝氏)、発表②「田口玄一博士の研究にみる技術研

大会発表賞 田口玄一博士は、ユーザビリティの環としてソフウェアのバグチエックの効率化の方法を提議し、多くの企業に広く受け入れられた。しかし、これだけではまだソフウェアを構築しているにすぎない。ソフウェア設計の抜本的な効率化の方法を探ったのがこの研究である。すなわち、設計初期段階から規模直交表を多用することで、管理者にも理解さ

せん。このことは品質工学においても品質の定義そのものであり、品質工学の活用、展開に大いに期待されることだと思いを待たれる。主催者として心より御礼申し上げます。さて来年度は品質工学会発足20周年を迎えます。来年度はこの20年の歴史を振り返るとともに、さらに発展した品質工学研究発表大会を自指したと思います。最後に一度参加された方々、発表された会員の皆さん、関連各位に御礼を申し上げます。ご協力ありがとうございました。

品質工学会に入会して 技術革新競争に勝ち抜こう!

品質工学は ○製品開発力を大幅に向上させます。開発期間の大幅短縮、高品質・低コスト製品の開発、高生産性の確保 ○工場の生産合理化問題も解決します。工程管理・検査の合理化、コストと品質の合理化・最適化 ○幅広い技術分野に応用可能です。機械技術、加工技術、画像形成、電気・半導体、化学反応制御、計測技術など ○工業分野以外の分野にも応用されています。医療診断、業績予測、パターン認識など、予測・診断・評価問題の解決

品質工学会の賛助会員企業・団体 [50音順] (株)IH/いすゞ自動車(株)/カルソニックカンセイ(株)/キャタピラー・ジャパン(株)/キヤノン(株)/コニカミノルタオプト(株)/コニカミノルタテクノロジーセンター(株)/(株)小松製作所/サイバネットシステム(株)/セイコーエプソン(株)/(株)ツムラ/東北リーコ(株)/日東電工(株)/(株)日本規格協会/東日本旅客鉄道(株)/(株)不二越/富士ゼロックス(株)/富士通(株)/富士フイルム(株)/古河電気工業(株)/マツダ(株)/三菱自動車(株)/三菱重工業(株) 2011年7月15日現在

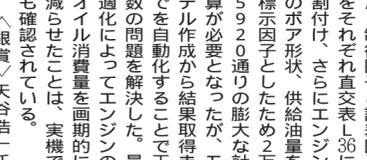
品質工学会 詳しくは学会HPまたは学会事務局まで http://www.qes.gr.jp/ 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-19-1 九段インテリジェントビル7階 TEL.03-6268-9355 FAX.03-6268-9350



多野洋氏、山崎茂氏、黒釜龍司氏(「二カミノルタオプト」)、田村希志氏(「二カミノルタヒジメ」)、田口玄一博士(「トヨタ自動車」)、西園田氏(「トヨタ自動車」)

「品質工学」が最優先となったのが課題である。診断技術の開発(故障原因の検出と位置付け)が、きた事例であり、現在の状況から見て、②設計と加工技術の追求(モノづくりの最先端を上げるのには、③教育効果の向上(教育評価の現状を問う)④計測技術の開発(技術の根本にさかのぼる)という四つのテーマが採り上げられた。い

品質工学への強い共感を示してくれた。続いて行われた特別講演は、伊藤源嗣品質工学会会長による「我が国の製造業の直面する課題と対応」品質工学との関わり。であり、現状課題からさらに将来予想される困難な状況に対し、品質工学が持つ可能性に言及するともに、具体的な活動へ展開することの重要性が述べられた。まさに時機を捉えた講演テーマであり、多くの聴衆をひきつけ、あらためて品質工学への期待を認識させるものであった。



「品質工学」が最優先となったのが課題である。診断技術の開発(故障原因の検出と位置付け)が、きた事例であり、現在の状況から見て、②設計と加工技術の追求(モノづくりの最先端を上げるのには、③教育効果の向上(教育評価の現状を問う)④計測技術の開発(技術の根本にさかのぼる)という四つのテーマが採り上げられた。い

品質工学への強い共感を示してくれた。続いて行われた特別講演は、伊藤源嗣品質工学会会長による「我が国の製造業の直面する課題と対応」品質工学との関わり。であり、現状課題からさらに将来予想される困難な状況に対し、品質工学が持つ可能性に言及するともに、具体的な活動へ展開することの重要性が述べられた。まさに時機を捉えた講演テーマであり、多くの聴衆をひきつけ、あらためて品質工学への期待を認識させるものであった。

品質工学への強い共感を示してくれた。続いて行われた特別講演は、伊藤源嗣品質工学会会長による「我が国の製造業の直面する課題と対応」品質工学との関わり。であり、現状課題からさらに将来予想される困難な状況に対し、品質工学が持つ可能性に言及するともに、具体的な活動へ展開することの重要性が述べられた。まさに時機を捉えた講演テーマであり、多くの聴衆をひきつけ、あらためて品質工学への期待を認識させるものであった。